



**UNITE
FOR
GOOD**



2025-2026年度

釧路ベイロータリークラブ会報

会長方針

「ロータリーを語り合いましょう、そして積極的に参画しましょう」

2025-2026年度 第5回(通算第1258回)

プログラム『公共イメージ例会』

■日時:令和7年8月19日(火)18時30分～ ■例会場:アクア・パールくしろ

【会長】森 圭一郎 【副会長】貝嶋 政治 【幹事】平野 知子

■ 点 鐘 森 圭一郎会長

■ロータリーソング『 我らの生業 』

ソングリーダー 貝嶋 政治君

■ 会長挨拶 森 圭一郎会長

皆さんこんばんは。前回の例会は仲間を増やそう！会員増強例会でした。今年度千葉委員長のもと、色々な方法を会員皆さんで意見を出し合い、全員参加型のとても良い例会でした。先ずは実行という事で、ゴルフコンペと懇親会、日本酒の会と設定をしていただきました。会員同士の親睦も含め、参加されます皆さまのご友人やお仕事でお付き合いのある方等もお誘いいただき、会員増強につなげていけます様宜しくお願い致します。千葉委員長ありがとうございました。

さて本日は公共イメージ例会です。地区では2020-2021年度松田年度より正式に地区の委員会として発足し、今年度は小谷直前ガバナーが委員長としてご担当されております。小谷委員長は、その価値はロータリアンが決めることなく、外部者(アウター)が決めることであると思います。「向上」させるとはロータリアンが自分

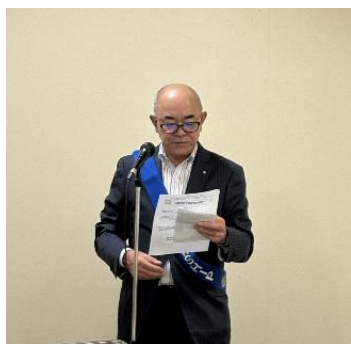
から言うのではなく、外部者が言ってくれるようになるために行動し続ける継続力が必要となります、と仰っております。ロータリーの存在価値を自分目線からではなく外部者目線に切り替えてということです。先ずはロータリークラブの存在価値をいかに効果的に発信していくかが大きな課題となっていきます。当クラブではクラブの活動についてHPの都度更新、新聞記事、ガバナー月信、ロータリーの友における投稿と行っておりますが、外部者に伝える手段は今のところHPが中心となっております。この部分も含め公共イメージは会員拡大にも大きく関わってまいりますので、会員皆さまも含めまして公共イメージについてのご意見、またご協力を宜しくお願い致します。

本日担当いたします公共イメージ委員会後藤委員長に宜しくお願い申し上げまして、本年度第5回例会の会長挨拶とさせていただきます。本日より一日宜しくお願い致します、ありがとうございました。

■ 幹事報告 平野 知子幹事

- ① ガバナー月信 vol2 が配信されております
HPにてご確認お願いいたします。
小谷年度最後のガバナー月信とロータリーの友8月号をボックスに入れてあります。
- ② 8/5 の理事役員会の議事録をボックスに入れましたのでご確認ください。
- ③ 9/13 の合同例会ですが、参加予定の方には後日 FAX にて詳細をお送りしますのでご確認のほどよろしくをお願いいたします。
- ④ 釧路北ローターアクトクラブ様より「第32回地区協議会」本登録のご案内が届いております。ボックスの上にありますのでご確認の上、参加を希望される方は幹事までお知らせください。
- ⑤ ハイライトよねやま及び根室RC様より8月の例会案内と会報が届いております。ボックスの上にありますのでご確認ください。

■ 各種記念日の紹介(親睦活動委員会)



【入会記念日】 該当者なし

【誕生祝】

沢田 雅仁君 昭和32年8月19日(68歳)

【結婚祝】 該当者なし

☆本日のニコニコ献金

【後藤委員長宜しくお願いします】

横山豊君、伊藤広樹君、漆崎隆君、美馬嵩俊君、
森圭一郎君、平野知子君、千葉潔君、貝嶋政治君、
葭本正美君、植原元晴君

【葬祭御礼、ありがとうございました】 鈴木敏夫君

【本日宜しくお願いします】 後藤義信君

★今日のニコニコ献金 ￥32,000円

★累計 ￥161,000円

★今日の小銭献金 ￥765円

★累計 ￥765円

皆さん、ありがとうございました

・本日のプログラム

「公共イメージ例会」

●公共イメージ委員長 後藤義信



公共イメージとは何か。それは、社会全体からどのように認識されているかという全体像で、ロータリークラブが地域社会からどのように思われているかということです。ロータリークラブは社会貢献を積極的に

行う団体として、社会から一定の評価は受けています。しかし、名前は聞いたことはあるが、詳しくはよくわからないという人もまだまだ多いと思います。そこでもっとわかってもらうためにも公共イメージをあげる必要が出てきますが、では公共イメージを向上させるとどんな成果がもたらされるかというと、単純に奉仕の輪が広がり、それによってクラブの会員数が増えてきますし、寄付額も徐々に増えるということになります。それはクラブが活性化しているということになります。クラブが活性化すれば公共イメージも上がることになりますので、公共イメージの向上とクラブの活性化は相乗的な関係があるということです。

もう一つ、イメージに近いものでブランドというものがあります。これまで築き上げてきた歴史や信頼、そのものの価値のようですが、ブランドの重さや大きさをブランド力といいます。ロータリーのブランド力は、まずその長い歴史、規模の大きさですね。最初のクラブ設立から120年という長い歴史と現在200以

上の国や地域に3万6千以上のクラブがあり、会員数はおよそ120万人、さらに各クラブや奉仕の内容が国際ネットワークで繋がっています。それらのクラブが様々な内容の奉仕活動をこれまでにたくさん行ってきて多くの人々の役に立ち、多くの人々に喜んでもらえたという実績あります。ブランド力の向上は、いいイメージとして広がります。ロータリーが大好きという人もいますが、これはロータリーのブランド力がもたらすものだと思います。そして釧路ベイロータリークラブもその中の1つのクラブと言うことになります。釧路ベイクラブは来年創立30年で会員数は20名の小さなクラブですから、ロータリーの持つブランド力を利用しながら奉仕活動を行うことで公共イメージをいかにもっと上げていくかということ課題となります。このためには、やはりクラブのさらなる活性化が重要な鍵になってきます。

各ロータリークラブがこれまで行ってきた奉仕活動ですが、それは確固たる理念に基づいて行われてきました。その理念とは何か。ロータリーには2つの標語、モットーがあります。1つは「超我の奉仕」もう一つは「最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」というものです。1つ目の標語の「超我の奉仕」とは「Service Above Self」という3つの英単語を日本語に訳したものです。直訳すると自分自身を超えて奉仕する。私利私欲を捨てて他者のために尽くす。これは自分の利益や都合よりも他者のために尽くすことを優先するという奉仕の理念を表しています。社会全体の幸福を追求するもので、個人の利益だけでなく、地域社会や世界全体の幸福を追求する活動を指します。見返りを求めない奉仕。奉仕活動を行う際に、見返りを期待するのではなく、純粹に他社のために尽くすことを重視します。この「超我の奉仕」は、ロータリークラブの活動の根幹をなす理念であり、ロータリアンは常にこの精神を念頭に置いて活動することが求められます。もう一つは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」です。英語では「One Profits Most Who Serve Best」この標語は、奉仕の精神を強調し、他者に貢献することが最終的には自分自身の利益に繋

がるという考えを表しています。「良い事をする」と巡り巡って自分のところに帰ってくる」と言うことです。この二つの標語についてもう少し詳しく説明します。これらの標語はロータリーの公式標語になっています。最初に承認されたのは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の方です。1911年オレゴン州ポートランドで開催された第二回世界大会で「He Profits Most Who Serves Best」として承認されました。これは、前年にシカゴで開かれた第一回ロータリー大会で、ロータリアンのアーサー・フレデリック・シェルドンが行った演説を基に作られた標語です。シェルドンはその演説の中で次のように語っています。「他者に対する正しい経営の科学のみが引き合うのだ。経営とは人間的な奉仕の科学である。その仲間に最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」、そこからきています。そして、この時のロータリー大会は、もう一つの標語「超我の奉仕」が誕生するきっかけともなりました。大会中にコロンビア川でボート乗りを楽しんでいた米国ミネソタ州ミネアポリス・ロータリークラブの会長、ベン・コリンズは、シアトルのロータリアン、J.E.ピンカムと、ロータリークラブを組織するのにふさわしい方法について話し合っていました。その中でコリンズは、自分のクラブで採用していた理念「Service, Not Self」を紹介しました。ピンカムは、同じボートに乗っていたロータリー創始者、ポール・ハリスを呼んで会話を続けました。ハリスから依頼されコリンズは大会で演説を行い、このフレーズが熱烈に歓迎されたという逸話が残っています。この2つの標語は、1950年にデトロイトで開催されたRI国際大会で、単語が少し修正され、ロータリーの公式標語として正式に承認されました。さらに1989年の規定審議会では、「超我の奉仕」がロータリーの第一標語として採択されました。これは、この言葉が利己的でないボランティア奉仕の哲学を最もよく言い表しているとの理由からです。一方、「He Profits Most Who Serves Best」は、2004年規定審議会でも主語の「He」が「They」に修正され、さらに2010年規定審議会でも現在の標語「One Profits Most Who Serves Best」と今の形になりました。

ロータリーの標語の説明が少し長くなりましたが、ロータリークラブの奉仕活動は、確固たる理念に基づいて行われてきました。理念の根底には、今説明した標語があるのです。

次に奉仕活動の内容ですが、ロータリーの奉仕活動は、具体的に5つの項目に絞られていて、それを五大奉仕といいます。一つ目は、クラブ奉仕でロータリークラブの機能を充実させ会員同士の親睦を深める活動です。例会への出席、委員会活動、会員増強がそれに当たります。二つ目は職業奉仕です。自分の職業を通して社会に貢献する活動です。倫理的な行動の実践、仕事の質を高める、後進の育成などです。

三つ目は、社会奉仕で地域社会のニーズに応える活動です。例としては、清掃活動、ボランティア活動、地域課題の解決などが挙げられます。四つ目は国際奉仕です。社会奉仕の海外版で国際的な視点で社会に貢献する活動です。ちなみに私は、これに興味があってロータリークラブに入りましたが、なかなか、簡単ではないということがわかりました。

そして最後は青少年奉仕で次世代を担う若者を育成する活動です。国内、海外両方あります。これら五大奉仕を通じてロータリークラブは会員一人ひとりが社会貢献を実践し、より良い社会の実現を目指して活動すること。これがロータリークラブです。ロータリークラブは最初、異業種の経営者達が集まりビジネス団体でしたが、かなり早い段階で奉仕活動をメインに行うようになっていったのがわかります。

奉仕活動を行う上で先ほど説明した2つの理念である「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の他に「4つのテスト」があります。「真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか。」です。これは当初、職業対する高い倫理基準という位置づけから職業奉仕のプログラムに入れられていましたが今ではすべての奉仕活動、さらにはロータリアンとしての基本理念になっています。この「4つのテスト」は世界恐慌まっただ中の1932年シカゴロータリークラブ会員のハーバートJテラーにより発案され、倒産寸前にあった

会社を最初は「7つのテスト」でしたが、それを4つに要約し、会社での倫理的行動を図る基準としてみごとに立て直したという。逸話が残っています。

そして5大奉仕は2つの理念、「4つのテスト」とともに1本の大きな樹木に例えられています。大きな樹木の根っこ部分は2つの理念と「4つのテスト」クラブ奉仕、幹は職業奉仕、幹から伸びる枝に実る果実は、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕です。国際奉仕に興味があってロータリーに入ろうと思ったのですが、根っこ部分や幹の部分もよく理解していないといきなり国際奉仕にはたどり着けないということが入会してわかりました。国際ロータリーは2度の次世界大戦、世界恐慌を乗り越えて数々の逸話を残しながら規模を大きくしていきました。第2次世界大戦では日本は国際ロータリーから一時脱退してしましますが、国際ロータリーは、国際連合の設立にもかかわり、世界のいくつかの大学にはロータリー平和センターを設置するなど世界平和にも尽力しています。これもロータリーの大きなブランドになっています。

しかし長い歴史の中で、ロータリーを取り巻く環境少しずつ変わり、120年たった今はロータリーができた頃に比べ大きく変わってしまいました。めざましいデジタル技術の発展と若者の価値観の変化、地球環境も大きく変化しました。今、ロータリークラブ、とりわけ今までロータリーを牽引してきた北米地域や日本の会員の高齢化と会員数の減少は大きな問題となっています。高齢化にともない若い会員数を増加させようと会員資格の緩和や制度の変革をしていますが、減少し続けています。若い世代が入りやすいクラブにするには、どうしたよいか。若い世代からは暇なおじさんの集まり揶揄されているようです。女性が入りやすいクラブにするにはどうしたよいか。さらには退会者を減らすためにどんな工夫が必要か。

退会する理由としてロータリーにかかる費用の負担や時間の負担が大きいことや、クラブの閉鎖的な環境と人間関係や想像していたような活動が十分にできないことがあげられているようです。

一方、ロータリークラブに入会する主なメリットとし

て様々な分野で活躍する人々との出会いを通じてビジネスやキャリアアップに繋がる可能性があります。例会や委員会活動、奉仕活動への参加を通じてコミュニケーションやリーダーシップと言った能力を向上させ人間形成や自己成長に繋がります。

地域社会への貢献や様々な人との出会いは、豊かな気持ちと満足感が得られ、人生の質を高めてくれるものではないでしょうか。

ロータリーの公式ウェブサイトによると「奉仕こそ、価値ある人生の基盤」であると述べられています。私もまさにその通りだと思います。

このことをクラブの外の世界へうまく発信することができれば、公共イメージの向上になると思います。色々話が飛びましたが、今日のテーマは、ロータリーの公共イメージの向上についてですが、公共イメージ

向上によりクラブの会員を増やすこと、さらに会員同士協力して奉仕活動をおこなうことが目的となります。しかしそのためには公共イメージの向上だけでなく、クラブを十分に活性化させ、いかに魅力あるクラブにするかということがもっと重要です。ロータリーのことを勉強することで、ロータリーのすごさ知って、会員一人ひとりがモチベーションを高め、クラブ全体で結束しなければ、魅力あるクラブするのは難しいと思います。来年は当クラブも30周年を迎えます。みんなで結束して頑張りましょうと言うことで今日の卓話を終了したいと思います
ご清聴ありがとうございました。

釧路ロータリークラブ 出席委員会

在籍会員数	20名	賜暇 / 免除	欠席 / メイクアップ	出席率
今週の出席率	12名	名 / 名	8名 / 名	60%
日修正出席率	名	名 / 名	名 / 名	%

会報・雑誌・IT委員長 後藤 義信：yoshinob510@outlook.com
副委員長 横山 豊：yokoyama_jiritsu@email.plala.or.jp
委員 植原 元晴：ueharaoto@jeans.ocn.ne.jp
委員 大越 拓也：takuya.76tsru@gmail.com
委員 美馬 嵩俊：tm.0919mima@gmail.com

クラブ事務所 釧路市幸町14丁目1-1 ノースタウン2階 TEL：(0154) 23-6175 FAX：(0154)23-6213